平成26年度 １次公募 ものづくり･商業･サービス革新補助金

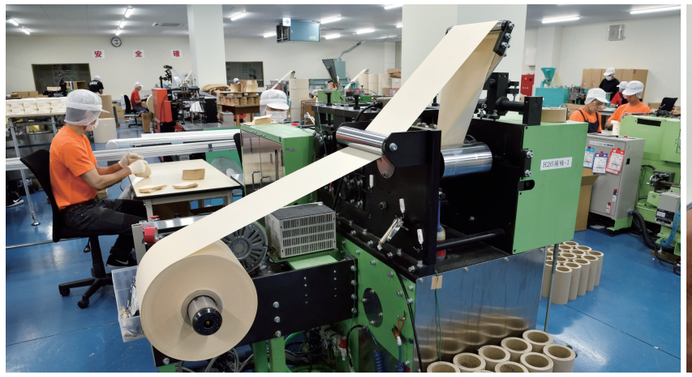
ものづくり技術
設備投資

コーヒーフィルターの製造から出荷までの生産管理システム及び設備導入による売上２倍計画の実現

株式会社 三洋産業

概要

高品質なコーヒー用ペーパーフィルターの製造・販売に関する技術力を駆使し、新たなる設備投資及びお客様への迅速な生産管理体制が確立できる「販売生産管理システム」を導入することで、生産性の向上及び販路拡大に繋げる



導入された新しいロータリー成形機



ハンディーターミナルを使って
正確な在庫管理が実現



ベルトコンベヤーで、
束ねたフィルターを包装機へ送る



最新の包装機では人の手を介さず
自動で包装する



主力商品の円すい形ペーパーフィルター

企業情報

会 社 名 株式会社 三洋産業
代 表 者 代表取締役 中塚 茂次
所 在 地 〒874-0921 大分県別府市富士見町７番２号
Ｔ Ｅ Ｌ 0977-25-3464
Ｆ Ａ Ｘ 0977-25-2210
Ｕ Ｒ Ｌ http://sanyo-sangyo.co.jp

事業内容 コーヒー関連製品製造
資 本 金 1,000万円
設　　立 昭和48年４月
社 員 数 110名



背景・経緯

戦後に花開いた別府のコーヒー文化を現代に受け継ぐ

株式会社三洋産業は、別府市に拠点を置く株式会社サンヨーコーヒーの関係会社として昭和48年に誕生した。コーヒー豆などを製造販売するのがサンヨーコーヒーで、三洋産業はコーヒーフィルターやドリッパーなどコーヒーに関連する器具の製造と販売を行っている。

サンヨーコーヒーの前身である三洋珈琲商会が誕生したのが、戦後まもない昭和23年のこと。別府という地方都市にコーヒー製造に関わる企業が約70年前からあることを意外に思うかもしれないが、戦後の別府市には米軍の駐屯キャンプがあり、ここから欧米の食文化が別府の町にひろがっていったという歴史的背景があるのだ。

前述のとおり、同社はコーヒー関連器具の製造販売において長い歴史と信頼を有する企業である。とくに主力商品であるコーヒーフィルターの製造では、世界で初めて大手メーカーと共同で円すい形コーヒーフィルター（円すい形はコーヒーの旨味成分を効率よく抽出できるため、雑味が少ない）を開発した企業として知られている。だが競合する他企業でも円すい形コーヒーフィルターを製造し始めたため、同社では独自性を強めながら効率的な製品を作ることが喫緊の課題となっていた。そこで今回の補助金を活用して、製造ラインの設備改善を図ったという。

事業内容

作業の無駄を洗い出し より効率的な製造ラインへ

ペーパーフィルターは、原料の紙から型抜きし、折り曲げて圧着させて作る。この一連の作業をロータリーと呼ばれる機械が担当するという。今回、導入したのは、そのロータリー成形機１台と、フィルターの束を包装するフィンガーレス横ピロー包装機、さらに、ロータリーと包装機を繋ぐベルトコンベヤーである。今までは

⑴３台のロータリーで作られたフィルターを６人で100枚ごとに束ねる
⑵そのフィルター束を板の上に並べる板出し作業を２人で行う
⑶板出しされた束を包装機に２人で入れる

という、３工程に10人の人間が必要だった。
これは人手も多く必要で、板出しされたフィルター束を置くスペースの確保など、さまざまな面で効率が悪かった。

そこで、３台のロータリーと包装機をベルトコンベヤーで繋ぐことで、板出しと包装機に入れる工程を省略することにした。今までの包装機では、人の手でフィルター束を等間隔に並べる作業が必要だったが、今回導入した包装機では、ベルトコンベヤーの上をバラバラの間隔でフィルター束が流れてきても自動で包装してくれるという。

成　果

人と時間のコストを大幅に削減し 正確な在庫管理も実現

新しい製造ラインの構築により板出しと包装機に入れる工程を省略できた結果、これまで10人で製造していたペーパーフィルターが６人で製造できるようになり、人員の４名削減が実現した。

ペーパーフィルターの中でも製造することの多い３～５人用の大きさのフィルターの場合、8,000枚をパック包装するまでに今までは50分かかっていた。それが今回の製造ラインでは20分で完了するという。これにより、４名の他部門への配置転換と30分の時間短縮が達成できた。これは、生産性で表すと70%向上という飛躍的な数値になる。それにともない、生産コストも45%の圧縮が見込まれるようである。

また、今回の事業でハンディターミナルも導入したため、無駄のない正確な製造・在庫管理が可能になったという。

展　望

より魅力的な独自商品で 海外も視野に入れた販路拡大を

九州唯一のコーヒー関連商品の製造販売企業として、より独自性のある製品を作っていきたい。最近では、円すい形コーヒーフィルター専用の有田焼フラワードリッパーや、通液性の高いアバカ（マニラ麻）を使ったフィルターなど、コーヒーをより美味しく楽しく味わうための新製品を開発し続けている。今後は円すい形の角度を変えたフィルターの開発なども行いながら品揃えを強化し、これまで問屋向けだった販売方法を一般消費者にまで拡大させる。さらに国内だけでなく、海外にも販路を拡大していきたいと担当者は話した。

コーヒーで別府から世界へと飛躍を誓う同社の今後の展開に、心からエールを送りたい。

まとめ

コスト削減と独自性の高い商品展開で
“コーヒーのある生活”を
ゆたかに彩る